

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>人々が生きて行くために当然にあるべき権利である「健康」が失われつつある無医村に於いて、蔓延するエイズやマラリア、乳幼児、5歳未満児及び妊産婦死亡率、その他の風土病や性病、多くの感染症の減少と公衆衛生知識、病気予防知識の普及を行い、人々の健康な生活を目指すことを目標とする。</p> <p>本上位目標については、診療所開設が事業案件でありそのための診療所建設についての資金協力である。建設は4月30日までに終了したが、マリ共和国に勃発したクーデター等、その後の政情不安定な状況が続いている。診療所建設中における住民の意識の高さ、また当会が4日間に実施した、女性たち対象の病気予防等の研修会の状況、また村の自主管理委員会への管理指導の研修会への出席状況から判断して上位目標は、数年後には7・8割が達成されると考える。</p>
(2) 事業内容	<p>時系列に、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本外務省の事業受諾についてスウバ村診療所(一般診療科部門と産院の合体型)の説明。 2) 建設業者の選択と建設契約と「スウバ村診療所自主管理委員会」の組織化と 建設について村民協力を依頼。 3) 診療所の建設開始。 4) 村民による診療所の運営管理方法を説明。 5) 診療所業務に関する啓発教育の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スウバ村診療所スタッフ(看護師、助産師)が人々へ病気予防と公衆衛生知識の啓発学習を行なうシステムの作成。 ・ スウバ村診療所スタッフは乳幼児、妊産婦への予防接種の徹底普及。 ・ その他。 6) 診療所建設開始中に住民への病気予防公衆衛生、母子衛生その他について女性を対象としてスウバ村にて研修会を開催。 <p style="margin-left: 40px;">講師；カラ女性スタッフ 保健コーディネーター アワ カンサイ カラ(歯科医師) 村上 一枝</p> 7) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療所業務に関する啓発教育の実施。 ・ スウバ村診療所スタッフ(看護師、助産師)が人々へ病気予防と公衆衛生知識の啓発学習を行なうシステムを作る。 ・ スウバ村診療所スタッフは乳幼児、妊産婦への予防接種の徹底普及。 8) 2012年4月 診療所完成 9) 本事業期間終了後も毎月、又は必要に応じて臨床面は指導医者と、運営管理に於いてはカラがフォローアップを継続する。

<p>(3) 達成された効果</p>	<p><u>期待される効果</u></p> <p>1) 診療所建設中における住民意識から察すると、診療所への期待度が非常に高いので、住民の多くはこの診療所での受診となる。</p> <p>2) この診療所の開設により、直接裨益者 10,000 人を想定、間接裨益者数は将来 (4,5 年後) には 80,000 人前後を想定している。(クリココミン内 7 町村総人口は 20,306 人である。)</p> <p>3) 住民の診療所保持に対する意識が建設以前より高まってきた。 それは、村主体での外壁の建設や薬局に薬剤棚を製作し管理していることから察しられる。 診療所開設後まもないために、達成された効果についての詳細は不明であるが、今後、自立した運営管理が可能になるまで毎月報告書や直接の訪問により効果の状況を把握する。運営管理に問題がある場合には診療所職員、自主管理委員会と会議を開き問題解決に当たり、より高い効果を望めるように策を考える。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>当診療所においては、確実な持続発展性が期待できる。</p> <p>コミン 7 カ村及びクリコロ町の市民生活にとって有効な診療所となる。それは、すでに村が自力で医療担当者 (看護師と助産師各一人) を育成していることや、他の医療担当者 (国家資格を有する医者 その他) を現在リクルートしていること等から言える。</p> <p>また、N 連協力資金以外による延長部分のセメントレンガによる外壁の建設は、あと 2 段くらいの高さが必要でありその資金は今後蓄得て増築することになっている。</p> <p>運営管理に必要な経費は「スウバ村診療所自主管理委員会」が主体となり、貯蓄していくことになっている。</p>